

④Int. Cl.<sup>2</sup> 識別記号 ⑤日本分類  
 G 03 B 27/32 103 C 21  
 G 03 B 21/11 103 D 1  
 G 03 G 15/00 103 K 12

庁内整理番号 ④公開 昭和54年(1979)5月26日  
6239-2H  
6401-2H 発明の数 1  
6805-2H 審査請求 未請求

(全 11 頁)

## ④可変倍率リーダー・プリンター装置

②発明者 斎藤英一  
横浜市緑区たちばな台2の9の  
1  
③出願人 富士ゼロックス株式会社  
東京都港区赤坂3丁目3番5号  
④代理人 弁理士 米原正章 外1名

②特 顯 昭52-132251

◎出 嘉 昭52(1977)11月4日

◎發明者 山崎富一

東京都世田谷区羽根木町一丁目  
12-5

明 廣 卷

### 「帝國」の名稱

#### 可変倍率リーダー・プリンター機能

### 2 特許請求の範囲

フィルム 1 3 の映像をストリーン 2 、感光体 2 3 のどちらか一方に投影できるようにしたりリードー・プリンター装置において、フィルム 1 3 が装置されるフィルム駆せ台 1 3 を側方を移動台 5 7 を介して駆動機構を介して動力源に伝達し、投影像の倍率を変更する第 1 、第 2 拡大レンズ 2 0 1 、 2 0 2 のどちらか一方を所定位臵に移動切替可能に構成すると共に、駆第 1 、第 2 拡大レンズ 2 0 1 、 2 0 2 の切替手段と倍率変速機構とを相互に連動して切替作動する如く機械的に連係したことを特徴とする可変倍率リードー・プリンター装置。

## 2. 発明の詳細な説明

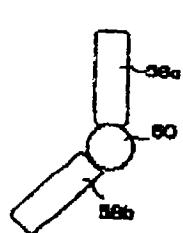
本発明はスクリーン上にマイクロフィルムの像を投影して、観察し、また投影を消去してマイクロフィルムと感光体を駆動しながらマイクロ

・フィルムの像を感光体に投影して複写する可変倍率リーダー・プリンター装置に関するものである。

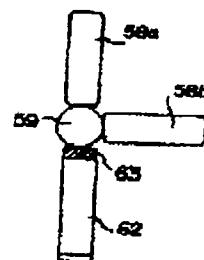
一般に、マイクロフィルム（以下フィルムとする）の映サイズに耐える規格は無数の種類がある。またフィルムは複写体の種類、大きさにより施付の縦横率が異なり、そのためフィルムに記録された面積のサイズが一定していない。また複写用紙として異なる大きさを選ぶことができる場合、必要なとする投影拡大倍率が異なり一定しない。

1脚として、マイクロフィルムの規格として広く利用されているNMA (National Microfilm Association) またはANSI (American National Standard Inc.) のA1規格の1脚の大きさは  $10\text{ mm} \times 12.5\text{ mm}$  であり、また同A3規格では  $11.75\text{ mm} \times 16.50\text{ mm}$  である。限りに  $210\text{ mm} \times 297\text{ mm}$  の大きさをもつてASA4用紙の文書を横書きとしてNMA-A1規格に処理する場合の縮少率を25分の1とすれば1脚の

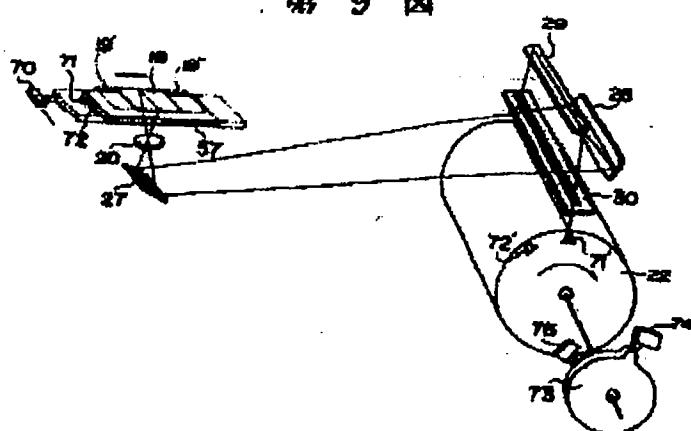
第 8 四



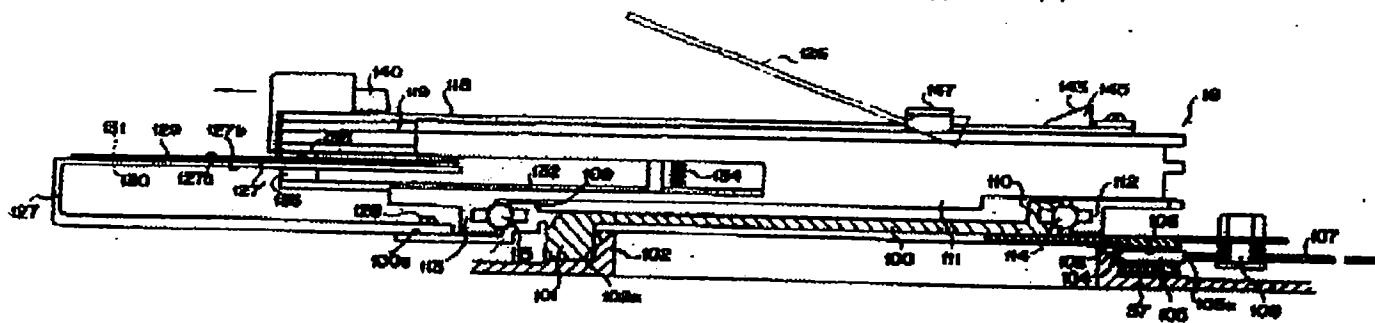
### 第 7 圖



### 第 9 図



### 第10圖



第12圖

